

小鳥さん巣箱にどうぞ

5月1日（金）、津軽富士見湖畔の「野鳥の森」で水元中央小学校の4年生13人が手作り巣箱の設置を行いました。

巣箱の設置活動は、子どもたちに愛鳥の精神とともに、自然を大切にする心を養ってもらおうと、昭和57年から続く同校の伝統行事となっています。野鳥の森周辺には、シジュウカラやムクドリ、ヒワなどが生息しており、児童たちは、小鳥が入りやすいように小さな穴を開けた手作りの巣箱を持ち寄って、松の木の高い位置にはしごを使い巣箱を設置。向きや角度に注意しながら、ひもで取り付けていました。

参加した齋藤優人くんは「巣箱にたくさん的小鳥が入ってほしい」と話していました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。



△巣箱を松の木に取り付ける子どもたち

1万本の花でパークを彩る

5月13日（水）、管内の幼稚園や保育所の園児および水元中央小学校の児童らが花の苗約1万本を富士見湖パークに植えました。

つるた乳幼児園の園児たちが「パークに来る皆さんの心が温くなるように、一生懸命お花を植えます」と元気いっぱいにあいさつした後、参加した子どもたちが、保寿会や木筒ひまわり会、五所川原農林高校の生徒らの手ほどきで、700㎡の花だんに赤、白、ピンクのベゴニアを植えました。

子どもたちは、花の葉っぱに土がかからないように、「きれいに咲いてね」「大きく元気に育ててね」と心を込めながら、優しく土の中に苗を植えていました。



△心を込めて植えた花は、観光客の目を楽しませてくれます。

ホタルが飛び交う里へ

5月15日（金）、鶴田小学校の3年生56人が丹頂鶴自然公園のホタル池に、ヘイケボタルの幼虫約400匹とエサとなるカワニナを放流しました。

幼虫放流は、ホタルの生息環境を保ち、子どもたちにホタルの生態や自然環境に関心を持ってもらおうと、平成16年から行われています。児童たちは、「大きくなってね」「キレイに光って飛んでね」と願いを込めながら、池に放流していました。放流を体験した児童からは、「どうしてホタルは光るの?」といった質問があがり、「ホタルを呼び戻す会」の尾崎美津郎さんが「自分のことを他のホタルに伝えるために、光ることでお話しをしているんだよ」と答えていました。



△カップに入ったホタルの幼虫を放流する児童たち

ゴールを目指して元気はつらつ

5月16日～31日まで、管内7つの小中学校で運動会が行われ、子どもたちが青空の下で楽しく汗を流しました。

胡桃館小学校では、大会長の長内牧子校長が「自分の競技に全力を発揮してみんなで力を合わせましょう」とあいさつした後、1年生の須郷秀人^{ひでと}さんと花田煌季^{こうき}くんが「転んでもゴールを目指して一生懸命走ります。たくさんの応援お願いします」と誓いの言葉を述べました。また、菖蒲川小学校（木村恵子校長）では、地区対抗の綱引きや玉入れのほか、地域のお年寄りや幼児らが参加する競技も行われ、児童とともに体を動かしながら、運動会を通して地域の交流を深めていました。



△仮装をして飲み物とドーナツを口に運ぶ児童（菖蒲川小学校）

葛西頼之が世界大会連覇

5月3～4日、第34回津軽三味線世界大会（同実行委員会主催）が弘前市民会館で開催され、当町出身の葛西頼之さんが男性A級の部で昨年に続き優勝し、大会連覇を成し遂げました。

昭和57年から続く大会は、津軽三味線の歴史や伝統の継承と発展を目的に、津軽三味線の音色を広く世界に向けて響かせる場として、近年では全世界の奏者が腕を競い合う場となっています。

7月18日（土）には、中三弘前店（弘前市）で、葛西さんの大会連覇を記念する公演が開催されます。公演は午後1時と6時からでチケットは前売り3千円（当日3500円）。公演に関する問い合わせは、中三弘前店まで（0172（34）3131）。



△男性A級で連覇を果たした葛西さん